ふじ眼科クリニック通信　vol.03

FUJI EYE CLINIC

眼瞼下垂症治療・垂れまぶた治療で快適・良好な視界を保とう！

眼瞼下垂症とは

まぶたが下がっており目が細くなってしまう、もしくは目が開けにくくなってくる病気です。黒目（角膜）がまぶたで隠れるようになると視野が狭くなり、目を開けるのに緊張が必要であったり、重症例では自分で手を使ってまぶたを持ち上げる必要があるため、肩こりや頭痛などの随伴症状も生じるようになるなど、生活の質（QOL:Quality of Life）が著しく阻害される病気です。

原因は？

主な原因としては、加齢に伴い眼瞼皮膚のたるみが生じるため、あるいは、まぶたを持ち上げる筋肉（眼瞼挙筋）の働きが低下するため、もしくはその両方のために起こる病気です。他にも、神経麻痺、内分泌疾患　等が原因となっている場合もあり、脳神経外科・神経内科・耳鼻科　等での精密検査・治療が必要になるケースもあります。

当院での治療

病状やお顔の全体的なバランス、ご希望、ご年齢を考慮し以下の術式を選択して行います。同じ治療でも効果に個人差がありますので、1回の治療での効果を見たうえで、別の術式もしくはすべてを組み合わせて行う場合もあります。

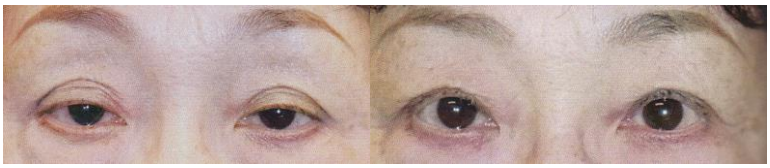
1　眼瞼形成術　（眼瞼の余剰皮膚切除）

黒目にかぶさっている余剰皮膚を眼瞼部で切除するとともに、二重瞼を作成し縫合します。黒目を覆っていた、余分な余剰皮膚が取り除かれるので、視界を広げることができ、また、まぶたの重みも取れるため、肩こりの軽減などQOLを改善させる効果が得られます。視野を広げる目的では最適な治療と考えておりますが、眼瞼の形状が今までと大きく変化しますので、美容上の変化を強く気にされる方は眉毛下皮膚切除のほうが外見上の変化は少ないのでよいかもしれません。また皮膚の厚い方は、まぶた皮膚を中抜きすることにより、上まぶたが突出して腫れぼったい形になりますので、追加で眉毛下皮膚切除＋皮下脂肪除去を追加する場合があります。

（手術前）　　（術後　半年後）

2　眼瞼挙筋短縮術

上眼瞼の中にある、眼瞼挙筋を同定し、短縮・縫合することにより、眼瞼を挙上する働きを強めることができます。同時に、上方の眼瞼皮膚のたるみがあれば、余剰皮膚を切除し、眼瞼形成も行います。眼瞼挙筋の働きが著しく弱っている場合には、この施術でも眼瞼挙上効果が得られませんので、前頭筋吊り上げ等の眼形成外科専門病院での治療が必要です。



（手術前）　　（術後　半年後）

３ 眉毛下皮膚切除（眉下リフト）

眉毛下方の皮膚を切除・短縮することで眼瞼皮膚を挙上させることができます。傷は眉毛に隠れるため、一定期間たてば目立ちにくくなり、また眼瞼周囲に傷を作らないため外見上の大きな変化が生じにくいメリットがあります。眼瞼皮膚を幅広く持ち上げることで、（二重瞼がすでにある場合や、二重手術を施行されている場合）幅広い二重瞼を作ることができるので、美容外科クリニックでは２０代、３０代の若い方にも多く行われている施術です。

（眉下切開で除去する部分）　　（切除後）

術後の腫れとケアについて　手術の縫合糸は 1 週間後に抜去します。それまでは、軟膏での創部治療が必要です。手術後 1 週間～1 か月までは腫れが強く、あざができますので、外出時には眼帯着用が必要になる場合があります(自宅内では装用不要)。切開線(創部)が目立たなくなるのは半年程度、人によっては 1－2 年程度要する場合があります。

保険適応か自費医療か　当院では視野が狭くなっているなどの視機能障害を伴う場合に保険医療での施術を行っております。視機能障害を伴わない軽度の眼瞼下垂、あるいは、目をぱっちり大きくしたい、幅広い二重瞼ラインを作りたい　等の主に美容目的での施術については自費医療となり美容形成外科クリニックでの十分なカウンセリングの上、治療を受けるかをご判断ください。

手術のリスク・合併症　眼瞼下垂・垂れまぶた治療は見え方の改善のみならず、肩こりの改善等の QOL の改善が得られ、快適な生活につながる素晴らしい治療ですが、外見上の変化を伴う他、一部の方には合併症が生じる可能性があります。目の開けにくさが残っている（低矯正の場合）、目が閉じにくく、スムーズな瞬きがしにくくなり、ドライアイ症状が強く生じるようになる（過矯正の場合）　等の合併症があります。その場合には腫れが落ち着くのを待って（数か月から半年程度）、修正手術・追加手術が必要となる場合があります。また、体質によって創部が目立ちやすい場合や二重瞼デザインが好みと異なる場合があります。視野改善が得られている場合には、保険医療での修正手術はできませんので、美容形成外科・美容皮膚科クリニックでの治療が必要となる場合があります。その他、感染症、創部閉鎖不全、出血持続　等で追加処置・手術が必要になる場合があります。

ＴＥＬ　0276-86-9900
ふじ眼科クリニック院長